

ほんばこ



愛媛県立今治西高等学校図書委員会 2026

9月になりました。夏休みはいかがお過ごしでしたか。部活動や勉強、課外活動など、色々と忙しい毎日だったと思いますが、充実した夏休みになったのではないのでしょうか。残暑の厳しい日が続く中、二学期も始まりました。新しい気持ちに切り替えるきっかけとして、読書の時間を作ってみるのはいかがでしょうか。

9月(長月 紅葉月 萩月)

二十四節気

白露 7日 大気が冷えてきて露を結ぶ頃です。朝夕の涼しさがくつきりと際立ってきます。

秋分 23日 春分と同じく昼夜の長さが同じになる日です。これから次第に日が短くなり、秋が深まっていきます。

図書委員よりおすすめの本

書名：『方舟』 著者名：夕木春央 出版社：講談社文庫

この本は長編の本格ミステリー小説です。この本の魅力は何と言っても、予想を裏切る結末です。大学時代の友人とともに、山奥の地下にある建物を訪れた主人公たち。そこで一晩を過ごすこととなりますが、翌朝、地震によって出入り口がふさがれてしまいます。さらに地下には水が流れ込み、このままでは建物が水没してしまうという状況に……。限られた時間の中で、登場人物たちは脱出する方法を探します。

そのような極限状態の中で、様々な事件が繰り広げられ、少しずつ謎が深まっていきます。「一体何が起きているのか」「この先どうなるのか」と、続きが気になってどんどん読み進めたいくなる作品です。

衝撃の結末は最後に明らかになります。私は一度しか読んでいませんが、読み返すと新たな発見があると言われるため、二度、三度と読んでみるのも面白いと思います。続きが気になる人はぜひ手に取って読んでみてください。

(3年 図書委員)

9月新着図書リスト

☆今年の夏に新しく追加された本を紹介します
この機会にぜひ手に取ってみてください。

NO	著 者	書 名	出版社
1	中嶋優子	それでも希望は失わない！「国境なき医師団」いのちの現場へ	河出書房新社
2	佐藤洋一郎	和食のミライ	岩波書店
3	安田弘法	挑戦する田んぼ	岩波書店
4	伊与原 新	翠雨の人	新潮社
5	小川洋子	劇場という名の星座	集英社
6	樫崎 茜	ツバメの親子はどこにいる	くもん出版
7	呉 勝浩	法廷占拠 爆弾 2	講談社
8	高野知宙	その糸を文字と成し	河出書房新社
9	砥上裕將	龍の守る町	講談社
10	町田そのこ	コンビニ兄弟	新潮社
11	町田そのこ	コンビニ兄弟 2	新潮社

12	町田そのこ	コンビニ兄弟 3	新潮社
13	平野啓一郎	私とは何か	講談社
14	キム・ソンミ / 矢島暁子 訳	ビスケット	飛鳥新社
15	シファー・サルタージ・サファディ / 山田文訳	カリーム、シリアとアメリカのはざまで	作品社
16	デボラ・ホプキンソン / 服部京子訳	こうしてぼくはスパイになった	東京創元社
17	ミッシェル・カダスマン / 村上利佳 訳	閉じこめられた「森の人」	あすなろ書房
18	スーザン・ムスケ / 足立江里佐訳	アザラシと海の約束	ハーパーコリンズ・ジャパン

先生方よりおすすめの本

今月は、河端 嘉恵 先生（理科）です。

書名『クスノキの番人』

著者名：東野 圭吾

出版社：実業之日本社文庫

中学・高校時代はミステリー小説が好きで、さまざまな作品を夢中になって読んでいました。しかし、教師になってからは本を読む時間も心の余裕も少なくなり、最近手に取るのは『Newton』や『PRESIDENT』など、自分の興味のある特集が載っている雑誌ばかりです。

そんな私が久しぶりに本を読んだのは、3年前、新型コロナウイルスの後遺症で半年間休職していたときでした。感染後しばらくは眠ることも食事をすることもままならず、スマートフォンを見ることさえできません。ただ息苦しさに耐えながら、一日一日を過ごすしかない毎日でした。

数か月がたち、少しずつ症状が落ち着いてきた頃、病院の帰り道に「何か本でも読んでみよう」と思い立ち、自律神経についての本と『クスノキの番人』を買いました。東野圭吾さんの作品だから、きっとミステリーだろうと思い、何となく手に取った一冊でした。

ところが、この作品は私の想像とは違いました。罪を犯した主人公が、願いを託す人々が訪れる巨木「クスノキ」の番人となり、さまざまな人との出会いを通して、自分自身の生き方や人生の意味を見つめ直していく物語です。今年アニメ映画化されたので知っている人もいるかもしれません。主人公も、自分ではどうすることのできない状況から物語が始まります。しかし、無理に現状を変えようとするのではなく、目の前の役割を一つずつ受け止め、人とのつながりの中で少しずつ前へ進んでいきます。その姿は、先の見えないコロナ後遺症の日々を過ごしていた私自身と重なりました。当時は「早く元に戻らなければ」という思いばかりが強く、休職している時間を前向きに捉えることはできませんでした。しかし、この本を読み終えたとき、「この半年は何も生み出せない時間ではなく、自分の生き方や価値観を静かに見つめ直すための時間だったのかもしれない」と思えるようになりました。

また、この作品には、「目には見えなくても、人はそれぞれ事情や苦しさを抱えて生きている」という温かな視点があります。コロナ後遺症は外見からは分かりにくく、周囲に理解されにくいこともあります。だからこそ、登場人物たちの表面的な姿だけでは見えない背景や思いが少しずつ明らかになっていく場面は、「見えない苦しみも確かに存在する」と静かに肯定してくれているように感じました。

『クスノキの番人』は、偶然手に取った一冊でした。しかし、苦しかった時期に寄り添い、心を支えてくれた私にとって特別な一冊でもあります。日々の生活に追われ、立ち止まる余裕がない人や、自分や誰かの苦しさにそっと寄り添いたい人に、読んでほしい作品です。本には、そのときの自分に必要な言葉との出会いがあります。慌ただしい毎日だからこそ、ときには本を開き、自分自身と静かに向き合う時間を作ってみてはいかがでしょうか。

御協力いただき、本当にありがとうございました。みなさんもぜひ読んでみてください！